デートDVを引き起こす要因の検討

○赤澤淳子

(仁愛大学人間学部心理学科)

キーワード: デート DV, DV 神話, 性差観

Factors that cause dating violence

Junko AKAZAWA

(Jin-ai University)

Key words: dating violence, myths about domestic violence, gender conception

【問題と目的】

デート DV に関しては、ごく最近マスコミなどに上げられることが増え、世間の関心も高まりつつあるが、その認知度は依然として低いのが現状である。また、これまで一般的に、DV は男性が女性に対して行うものであり、女性は被害者であるというように解釈されてきた。しかし、近年女性から男性への DV もメディアなどによって報じられており、今や DV は男女ともに加害者にも被害者にもなる可能性があるといえる。ところが、デート DV についての研究はその大半が女性を被害者としたものであり、女性から男性へのデート DV 行為の研究はとても少ない。そこで、今回の研究では、男女におけるデート DV の被害・加害の実態およびデート DV を引き起こす要因について検討することを目的とした。

【方 法】

1. 調査対象者: F 県の大学生、計 286 名 (男性 81 名・女性 200 名) で、平均年齢は 19.24 歳であった。
2. 調査期間: 2009 年 7 月。
3. 調査内容
(1) 性差観: 伊藤 (1997) による性差観スケールを用いた。
(2) DV 神話に関する思い込み: 小泉・吉武 (2006) が作成した DV 神話尺度を用いた。
(3) デート DV 被害・加害経験の有無: 小泉・吉武 (2006) が作成した尺度を用いた。

【結 果】

1. 因子分析について—デートDV被害・加害経験の有無
デートDV被害の質問項目の因子分析 (最尤法・プロマックス回転) を行った結果、デート DV 被害項目の「冗談のつもりで軽くこづかれる」「腹を立てたとき、殴るふりをされる」の 2 項目は共通性の値が低かった。よって、その 2 項目を除外し、再度因子分析を行った。その結果、「身体的暴力・監視」、「性暴力」、および「精神的暴力」の 3 因子が抽出された (Table 1)。デートDV加害の質問項目の因子分析についても、被害尺度とほぼ同様の構造がみられたため、デートDV被害の因子分析で抽出された結果を基に、加害尺度の分析を行った。

Table1. デートDV被害の因子分析

	因子1	因子2	因子3	共通性
3 目の前で物を投げつけられる	.906	-.030	-.098	.707
4 身体をつかみ叩かれる	.615	.135	-.045	.431
8 行動を制限され、監視される	.512	-.029	.135	.346
11 携帯チェックをされる	.480	.066	.003	.263
5 大声で怒鳴られる	.457	-.050	.301	.432
13 無理やりセックスされる	.001	.928	-.131	.784
14 避妊に協力してくれない	.183	.587	-.009	.461
15 無理やりポルノグラフィーを見せられる	.036	.530	.001	.298
12 無理やり身体を触られる	-.087	.455	.301	.348
9 イライラをぶつけられ、怒られる	.122	.055	.782	.779
7 長い期間無視される	.014	-.067	.492	.229
10 いやな呼び方で呼ばれたり、見下される	-.161	.314	.372	.242
6 すぐに別れ話を持ち出される	.325	-.047	.331	.318
固有値	3.90	1.14	.59	

2. デート DV 被害・加害, 性差観, および DV 神話における性差
各被害項目のうち 1 つでも経験があると回答した人を経験群とし、全く経験のない者を非経験群として、その比率につ

いて男女間で χ^2 検定を行った。その結果、性的被害において有意差が認められ、男性よりも女性の方が性的被害率が高かった。同様に、性的加害においても男女間に有意差が認められ、女性よりも男性の方が性的加害率が高いことが明らかになった。性差観においては、男女差は示されなかったが、DV 神話については、男性は女性より得点が高かった。

3. デート DV 被害経験と加害経験との関連

因子ごとに項目の合計得点を算出し、各々被害経験および加害経験とした。そして、それらの得点について、男女別に被害経験と加害経験との相関を検討した結果、男女ともに両者の間には、有意な正の相関が示された。

4. 性差観, DV 神話, およびデート DV 被害・加害経験との関連

男女の性差観の平均値により、高群・低群の 2 群に分類し、DV 神話得点およびデート DV 被害・加害経験について平均点の差の検定を行った。その結果、男女ともに性差観が高い群は、DV 神話得点が有意に高かった。同様に、デート DV 神話得点についても平均値で 2 群に分け、被害・加害経験について、2(性別)×2(高低群)の 2 要因の分散分析を行った。その結果、性的被害経験において性の有意な主効果が、精神的被害・加害経験において、DV 神話高低群の有意な主効果が示された。女子は男子より、性的被害経験が高く、DV 神話高群は低群より、精神的被害および加害経験が高いことが明らかになった。

【考 察】

本研究では、DV 神話、性的被害・加害率において男女差が示された。つまり、性的 DV については、女性が被害者となる比率が高く、親密な二者関係における男女間の性行為においては、まだ十分に対等であるとはいえない現状であるといえる。また、被害経験と加害経験との間に有意な正の相関が示されたことから、Widom (1987) が指摘するように、自身の被害体験を再演することにより、加害行為が生み出されるといった暴力のサイクルの存在が示唆された。

次に、性差観が伝統主義的な者であるほど、DV に関して誤った思い込みをしていることが示された。恋人関係にある男女においてはジェンダー・ステレオタイプがより強化されることが指摘されており (土肥, 1995)、そのため、恋人関係において DV 神話はより強くなることが推測される。

さらに、DV に対して誤った思いこみをしている者は、加害行為の遂行度が高いだけでなく、被害行為も受けやすいことがわかった。このことから、DV に対する正しい知識を普及させることは、DV の防止に役立つことが明らかとなった。

【引用文献】

- 土肥伊都子 (1995). 性役割分担志向性・実行度および愛情・好意度に及ぼす性別とジェンダー・パーソナリティの影響 関西学院大学社会学部紀要, 73, 97-107.
- 小泉奈央・吉武久美子 (2008). 青年期男女におけるデートDVに関する認識についての調査 純心現代福祉研究, 12, 61-75.
- Widom.C.S. (1987). The cycle of violence. *Science*, 244, 160-165.